

平成28年 3月 7日

## 平成27年度 東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト実施報告書

※この報告書はHPなどで公表されます。

### 1. プロジェクト名

東アジア美術アーカイブ・プロジェクト

### 2. 申請研究者

(氏名) 板倉聖哲 (所属・役職) 東洋文化研究所・情報学環 教授

※申請研究者以外に、主要な研究協力者がいる場合はご記載ください。

(氏名) (所属・役職)

### 3. 研究期間

平成26年4月1日から平成28年3月31日(2年間)

### 4. プロジェクトの趣旨、全体計画(400字程度)

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト、東アジア絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト、東アジア美術デジタル・アーカイブ・プロジェクト、および小川裕充名誉教授が進めてきた資料整理プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指すものである。アジア美術画像アーカイブ・プロジェクトの中心をなす中国絵画のアーカイブをより充実させるため、科研やセンター・プロジェクト等で新たに収集した資料を加工・整理し、公開していく。

『中国絵画総目録』3篇の刊行開始は日本のみならず中国・韓国美術史学会では世界的に注目されているが、同時に重版を切っ掛けとして「中国絵画所在情報データベース」は国内外のアクセスが増え、より注目されていることがわかる。又、一昨年完成した「東アジア絵画史研究文献目録」も日本の研究を世界に知らせる役目を果たしている。さらに、前々回のプロジェクトで公開を開始した新たな画像データベース「幕末期中国絵画所在情報データベース」の画像を充実させる。

### 5. 今年度の研究実施状況(400字程度)

既に出版を開始した『中国絵画総合図録』3編の資料整理を引き続き行い、本年9月にはヨーロッパ編である第3巻を出版し、引き続き、東アジア・オセアニア編である第4巻の出版の準備を進めている。日本所在の寺院・個人コレクションの収蔵品については、第5巻に加えるため、デジタル写真撮影・資料整理を行った。

又、2015年4月にはセンターシンポジウム「描かれた都 北京編」を開催、北京をめぐる都市図について美術史のみならず、文学・歴史の関連からの検討を行い、2016年2月にはセンターシンポジウム「朝鮮通信使をめぐる美術」を開催、近世日本における文化交流の実態を探る糸口となる朝鮮通信使の随行画員の作品群を検討し、意見交換を行った。

さらに、「幕末期中国絵画所在情報データベース」の新たな進展のために予備的な作品調査を行った。

### 6. 今年度の研究成果の概要(400字程度)

『中国絵画総合図録』3編第3巻では、清時代に多く生産、ヨーロッパで流通したトレード・ペインティングの図様が俯瞰できるように調査撮影を行った成果が発表されたが、複数の研究者から感想が寄せられ、その影響が改めて実感された。

シンポジウム「描かれた都 北京編」は、学内外の研究者30名、「朝鮮通信使をめぐる美術」は20名が集い、新出作品を含めて活発な議論が行われた。